



吽像

阿像

有形文化財（彫刻）

24. 木造随神像 2 軀一対

もくぞうずいしんぞう

く

■指定年月日 昭和63年3月18日(1988)

■像 高 阿像 38.0cm 吽像 39.0cm

■所在地 大谷町 2-56

■所有者 おおたに 大谷神社

随神は主神の護衛を役とする従者である。神社では社殿の中か左右の随神門に安置した。「かどもりの神」「かどのおさ」とか、「右大神・左大神」等とよばれた。

2体とも頭と胴部は一木で造り、両手首と左足先は別材で作りはめこんである。衣冠束帯で片足を立てて坐る姿である。右神(阿像)は右手首を欠き、左右共大刀等の持物はなくなっているが、保存状態は良い。

底面に次のような墨書の銘文が記されている。

(阿像) 天文八稔 六月廿四日  
本願助友新家  
兵衛次郎

白山妙理

大権現

(吽像) 天文八稔 六月廿四日

白山妙理大権現 本願助友新屋

兵衛次郎

敬白

この随神像は大谷地内にあった旧白山神社に安置されていたものであり、奉納者は大谷村の名主助友一族であった事がわかる。天文8年(1539)という製作・奉納の年代と奉納者が明確なこの像は珠洲の中世史の史料として重要である。